

大月町 事前復興 まちづくり かわら版

泊 浦

第 2 号

【地区としての復興の方向性】

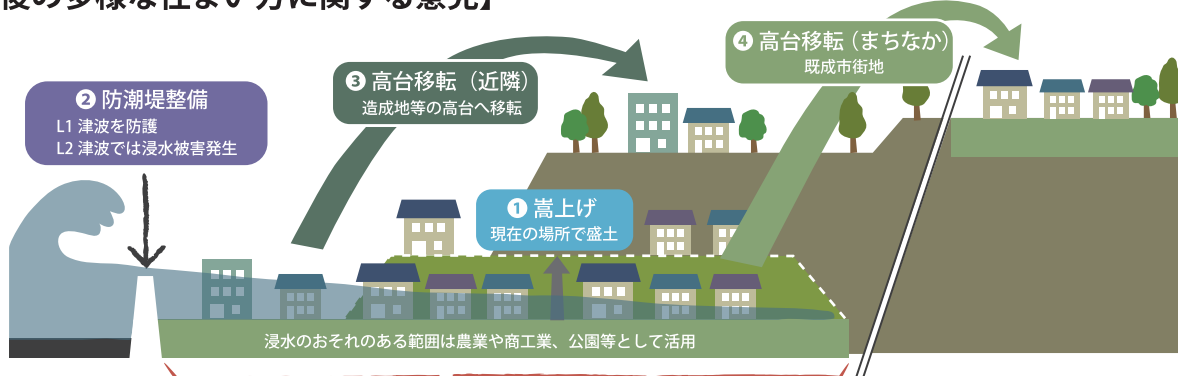
漁業再興

- ・港に漁業の機能を残したい
- ・巻き網など漁業を再興したい
(泊浦では若い人、外国人も働いている)

課題

- ・地元の人で担い手がいない
- ・外部業者に協力してもらいたい
- ・大手が戻ってくれば再興できる

【被災後の多様な住まい方に関する意見】



居住の制限

浸水のおそれのある区域は居住の制限を検討
※範囲は L1 対応の堤防整備等を踏まえて津波シミュレーションの結果を踏まえて設定

① 嵩上げ

- ・嵩上げて地元に残りたい

② 防潮堤整備

- ・また家を建てて、泊浦に住むのは難しい

- ・バスが何本も通って欲しい

③ 高台移転（近隣）

- ・公営住宅に入れたらいい
- ・地区内の高台に家を建てられるのが理想
- ・心配なのは家を構えるための資金

- ・泊浦の人達と一緒に住みたい！
- ・団地のように隣近所の家が近くても平気！

④ 高台移転（まちなか）

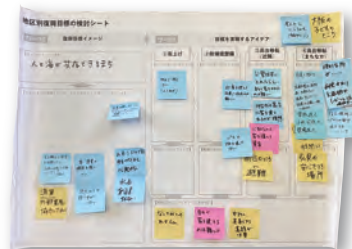
- ・便利なところがいい
- ・役場、病院、学校、ふれあいパークの近く（弘見）
- ・交通網がしっかりあるところがいい
- ・弘見の子どものところに行く

- ・安全なところにある老人ホームに入るかも
- ・県外の子ども、知人のいるところに行きたい

昨年度に引き続き、令和7年度
第2回ワークショップが開催されました。

2025年7月11日（金）10:00～12:00、泊浦集会所にて事前復興まちづくり計画に向けた地区ワークショップが開催されました。

第2回地区ワークショップでは、「南海トラフ巨大地震が発生した場合」を想像しながら、地区としての復興の方向性や、被災後の多様な住まい方に関する意見交換を行いました。



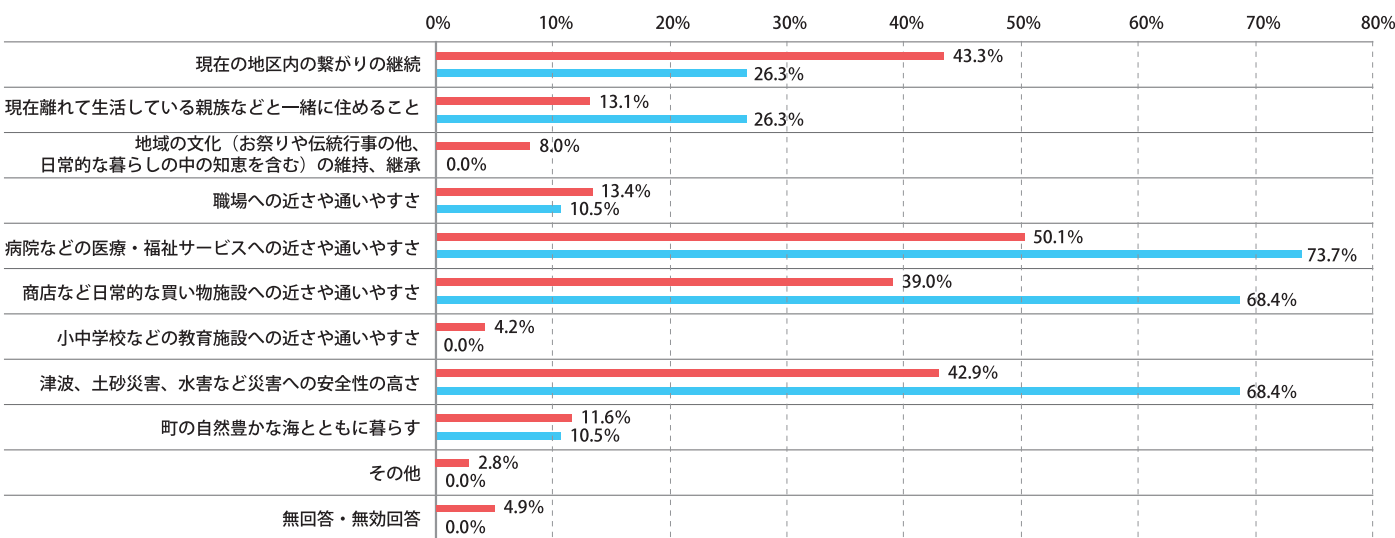
防災について

- ・高台へ避難！ムネン峠なら、水もあり、雨も津波も心配ない
- ・中村へ直通できる道路が必要！

大月町事前復興アンケート調査を実施しました。ご協力ありがとうございました！

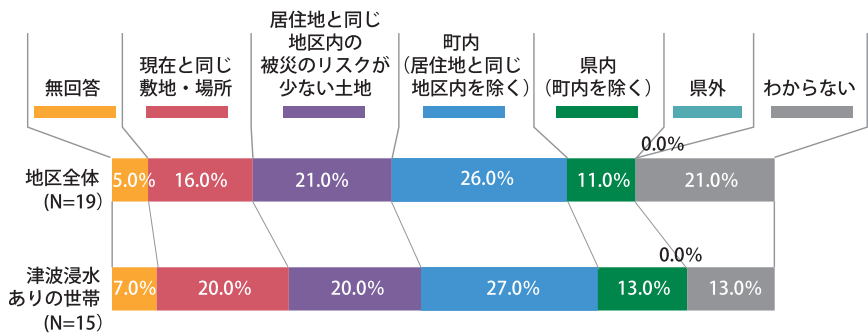
2025 年 8 月 25 日までの2週間、全町民の方を対象に、事前復興まちづくりに関するアンケート調査を実施しました。一部ではありますが、被災後の住まい方に関する質問を中心に地区の回答結果について、共有させていただきます。

●被災後の住まいで重視する内容（地区と町全体での回答を掲載）



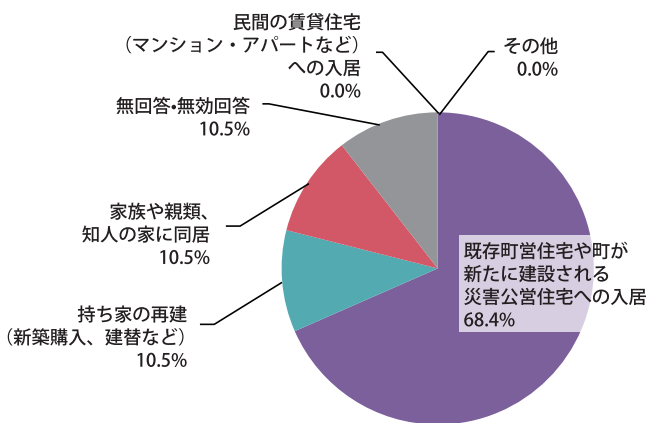
●被災後の住まいで重視する内容について、大月町全体では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 50.1% と最も多く、次いで「現在の地区内の繋がり継続」が 43.3% となった。泊浦地区では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 73.7% が最も多く、次いで「商店など日常的な買い物施設への近さや通いやすさ」、「津波、土砂災害、水害など災害への安全性の高さ」が 68.4% となっている。

●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所



●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所については、泊浦地区全体では「町内（居住地と同じ地区内を除く）」が 26.0% と最も多く、次いで「居住地と同じ地区内の被災リスクが少ない土地」、「わからない」が 21.0% となった。津波浸水の予想される世帯でも「町内（居住地と同じ地区内を除く）」が 27.0%、が最も多く、「居住地と同じ地区内の被災リスクが少ない土地」、「現在と同じ敷地・場所」が 20.0% となっている。

●復興の際の住まいの形態 (N=19)



●復興の際の住まいの形態については、「既存町営住宅や町が新たに建設される災害公営住宅への入居」が 68.4% と最も多く、次いで「持ち家の再建」、「家族や親類、知人の家に同居」、「無回答・無効回答」が 10.5% となっている。